

働問題が急速なる成長發展を見るに至つた。而して協
調會の基本性格とする「協調主義」は、創立
の當初に於てはその眞意を理解せられたるため屢々世評の
的となつたや、大正九年特に宣言を發して、社會に
於ける各階級特に勞資両者が、平等なる人格の基礎の
上に立つて自他の正當なる權利を尊重すべきことを強
調し、これかために勞働者の地位の向上と勞働組合の
健全なる發達を希求する旨を聲明した。これは山とよ
り近代社會思想に基つた勞資の協調を期したものであ
つた。爾來協調會は、その事業の運営において幾多の
曲折があつたけれども、社會政策に関する原理を探究
するところにも、ひとり勞働者の啓蒙指導に當つたおが

りびを、一面事業主に對する自覺と自制を促すこ
とにツイエ、また最善の努力を拂つて來た。
たゞ昭和十年前後、特に支那事變勃發以來、世界に
於ける政情の變化は、わが國の社會思想に激動を與へ
、なにかんおく勞資間の問題についても新手法を要する
内外必至の情勢となつたので、昭和十三年に時局對策
委員會を設けて勞資關係の調整方策を案じ、ひいて産
業報國聯盟として生れたのであつたが、これが新体制
性格に發展して大日本産業報國會となり、國家の直接
且つ強力なる統制下に歸するに及んで、おが協調會は
、社會政策の調査研究機關たる独自の立場を堅持して
これを對峙したま、ついに終戦に至つたのであつた。